



## 5. 全期間を通じた研究交流目標

ユネスコによる世界遺産の制度化により、アフリカ諸国の文化遺産に関する関心はいちじるしく高まっている。しかしながら、世界遺産に登録されている総件数890（2007年現在）に対し、サハラ砂漠以南のアフリカ諸国の登録件数79、うち文化遺産42と、その数はきわめてかぎられている。その理由は、ひとつには、アフリカ諸国の考古学調査が進んでいないために、文化遺産の価値が十分に認識されていないことである。それに加えて、アフリカの多くの国では、文化財の保護や社会的活用のための制度設計ができていないという課題もある。

本学術基盤形成事業においては、西アフリカ・マリ共和国の文化省文化財保護局およびマリ大学と協力しながら、文化財の発掘・調査に当たる人材の育成と、文化財の保護および社会的活用にあたる人材を育成する。マリのように深い歴史がありながら、研究学術資金の制約がある国家においては、この2つの領域は同一人物が兼務していることが多く、この両面における力量の啓発は大きな意義がある。さらに、文化財の保護とその社会的活用のために地域社会とどのように協力するかのノウハウを概念化し、博物館などでの展示・公開の作業を通じて、文化財のもつ価値を地域住民と国民に対して公けにしていって作業を実施することで、文化財の公共的活用という研究課題に答えていく。また、本研究期間中に、わが国の若手研究者を現地で研究させるなどして、彼らの育成にも尽力する予定である。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

本研究の初年度であるため、前年度までの実施はない。

## 7. 平成22年度研究交流目標

本年度は、本研究の日本側コーディネーターである竹沢がまずマリに行き、マリ側コーディネーター等と、今後の研究交流の実施計画の策定、マリ大学との研究協力の実施体制の構築について話し合う。それと平行して、日本では日本側参加者が数回集まって協議して「研究協力体制」を構築する。また、これまでネットワークの存在しなかったガーナともネットワークを広げるために、マリ出張時にガーナに立ち寄り、アクラ・ガーナ大学やンクルマ・クマシ大学の考古学者や文化財科学者と協議する。

「学術的」には、本研究協力によってマリ国内の考古学者と共同研究を組織して、未開発の遺跡の発掘を行う。それと平行して、マリの考古学的研究の発展に寄与するべくセミナーと実習を組織し、文化財の保護のためのノウハウの開発と、考古学的知識の普及・開拓に貢献する。これらは、マリ大学の大学院生や若手の学芸員の学識と技能の向上に大きく寄与するはずである。

## 8. 平成22年度研究交流計画概要

### 8-1 共同研究

国内で参加者が数回集まることで、マリのように資金的に制約があり、文化財の保管施設も十分ではない地域での、博物館での文化財保存と展示の改善に向けたノウハウの開発をめざす。現地の博物館の施設内容や文化財の質と量、保存施設の詳細等については現在問い合わせ中であるが、その結果を待って、改善策を考案する。それをもとに、竹沢が現地に行き、現地の研究者と話し合っ、博物館の保存方法と展示手法の開発に努める。マリは、アフリカの他の国々と同様に、博物館等の施設は存在するが、その運営に関しては予算が限られていることもあり、大きな制約がある。少ない費用で大きな効果を挙げうるノウハウの確立は、学術的にも国際貢献の観点からも、大きな成果を収めるはずである。

さらに、マリ国内で、マリ側コーディネーターをはじめ、マリ大学の2名の教授が加わることで、マリ東部のガオ遺跡での考古学発掘を遂行する。これは竹沢が10年来発掘している遺跡であり、それにマリ大学の大学院生7名を派遣し、約1ヶ月滞在させて研修を実施する。西アフリカ各国の大学では、考古学の講座はあるが、予算の制約により実習が行われなため、机上の学問になる傾向がある。その改善のためには、日本側参加者と、マリ側機関や協力機関の研究者が指導する研修に若手研究者を参加させ、現場で鍛えることが必要である。

### 8-2 セミナー

竹沢と川口がマリ行き、マリ各地の文化財保護局の支部員および各地の博物館学芸員、あわせて約8名を集めて、セミナーを実施する。テーマは、考古資料を中心にした文化財の保護方法と、博物館での展示手法の改善である。近年、マリをはじめとする西アフリカ各国では、ヨーロッパのNPO等の介入により、地域博物館の建設が盛んに行われている。しかしながら、その保存のためのノウハウや博物館の展示に関しては、それを教育する機関が現地になくともあり、改善の余地が大いにある。そこで、現地の実務担当者を集めてセミナーを実施することにより、その拡充をめざす。

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

竹沢が5-6月にマリに入り、マリ文化省文化財保護局の局長をはじめとする研究者、およびマリ大学の教授、マリ人文科学研究所の研究者と会合をもち、研究協力体制の構築と、今年度以降の研究実施の具体的内容を立案する。その際、マリと考古学的な関係の深いガーナにも立ち寄り、アクラ・ガーナ大学やンクルマ・クマシ大学の考古学者、文化財科学者との将来的な研究交流の実現に向けて話し合う。

## 9. 平成22年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	マリ 〈人/人日〉	ガーナ 〈人/人日〉	〈人/人日〉	〈人/人日〉	合計
日本 〈人/人日〉		4 / 50	1 / 15			5 / 65
マリ 〈人/人日〉						
ガーナ 〈人/人日〉						
〈人/人日〉						
〈人/人日〉						
合計 〈人/人日〉		4 / 50	1 / 15			5 / 65

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は( )をのぞいた人・日数としてください。)

### 9-2 国内での交流計画

8 / 8 〈人/人日〉
--------------

## 10. 平成22年度研究交流計画状況

### 10-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成22年度	研究終了年度	平成24年度
研究課題名	(和文) アフリカにおける文化遺産の保護と社会的活用のための研究交流 (英文) Protection and Public Use of the Cultural Heritage in Africa				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 竹沢尚一郎 国立民族学博物館 教授 (英文) Takezawa Shoichiro, National Museum of Ethnology, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	Sanogo Klessigue, Direction of the Cultural Heritage, Director				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先	日本 <人/人日>	マリ <人/人日>	<人/人日>	計 <人/人日>
	派遣元				
	日本 <人/人日>		1/30		1/30
	<人/人日>				
	<人/人日>				
	合計 <人/人日>		1/30		1/30
	② 国内での交流 8/8				
22年度の研究交流活動計画	平成23年1月に、マリ大学の学生を7名選抜して、マリ東部のガオ市での発掘実習に参加させる。この研究には、本研究交流の日本側コーディネーターである竹沢をはじめ、マリ側コーディネーターのサノゴの他、マリ大学のケイタ、ダンベレ両教授も参加し、学生の指導に当たる。本研究は、マリで初めて発見された、王宮と思われる西暦10世紀の大規模建造物の発掘にあたる予定である。				
期待される研究活動成果	マリのみならず、西アフリカで「中世」の王宮が発掘されたことはなく、本研究の成果は国際的にも高く評価されるはずである。また、それにあたっては、マリ大学の大学院生7名を参加させることで、かれらの考古学的な知識と発掘能力の向上に寄与する予定である。				
日本側参加者数					
	4名	(13-1 日本側参加者リストを参照)			
(マリ)国(地域)側参加者数					
	3名	(13-2 (マリ)国(地域)側参加者リストを参照)			

10-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会 アジア・アフリカ学術基盤形成事業 文化財保護と博物館展示のためのセミナー
	(英文) JSPS AA Science Platform Program Seminar on the Cultural Heritage and its Exhibition in the Museum
開催時期	平成23年1月10日 ~ 平成23年1月12日 (3日間)
開催地(国名、都市名、 会場名)	(和文) バマコ、マリ
	(英文) Bamako, Mali
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 竹沢尚一郎 国立民族学博物館 教授
	(英文) Takezawa Shoichiro, National Museum of Ethnology, Professor,
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	Sanogo Klessigue, Direction of the Cultural Heritage, Director

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 ( マリ )	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	2 / 10	
マリ 〈人/人日〉		
	8 / 40	
〈人/人日〉		
合計 〈人/人日〉	2 / 10	
	8 / 40	

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない(参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>マリ各地では文化財保護に対する関心が高まり、また外国のNGO団体等の支援により、地域博物館が相次いで建設されている。しかし、文化財の保護や、文化財を博物館でどう展示するかについてのノウハウの蓄積はないので、セミナーを開催することによりその能力を向上させる。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>マリ文化省では、マリ各地の文化財保護と考古学文化財の発掘等のために、全国に7つの支部をもち、日々積極的に活動している。また、全国にある8つの州では、そのほぼすべての地域に地域博物館が建設され、地域の文化資源の展示を行っている。</p> <p>しかし、マリ国内には博物館学を学習できる施設は存在しないし、文化財保護についても同様である。そのため、マリ国内には4つのユネスコの指定による世界遺産が存在するにもかかわらず、その保護と開発の活動はいまだ未発達である。本セミナーは、マリ各地の文化財保護局員と博物館学芸員を集めて、日本側研究者が4日間の研修を実施するものであり、それにより学芸員や文化財保護員の関心と能力を大幅にアップできるものと期待される。</p>
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>マリ文化省文化財保護局が実際の運営にあたり、それに日本側参加者である竹沢と川口が講師のかたちで参加することで、セミナーを実施する。</p>

開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 日本側研究者の旅費滞在費・会場費・人件費・印刷費・資料作成費の負担 金額 1,118,000 円
	( ) 国 (地域) 側	内容 金額
	( ) 国 (地域) 側	内容 金額

### 10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

#### ① 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	マリ 〈人/人日〉	ガーナ 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		1 / 10	1 / 15	2 / 25
〈人/人日〉				
〈人/人日〉				
合計 〈人/人日〉		1 / 10	1 / 15	2 / 25
② 国内での交流		0 / 0		

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
国立民族学博物館・教授・竹沢尚一郎	マリ・バマコ・文化省文化財保護局、ガーナ、アクラ・ガーナ大学	2010. 6. 1-2010. 6. 25	研究協力体制の構築に向けた話し合い

### 1 1. 平成22年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	200,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	2,305,000	
	謝金	1,300,000	
	備品・消耗品購入費	350,000	
	その他経費	669,750	
	外国旅費・謝金に係る消費税	175,250	
	計	5,000,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		5,500,000	

### 1 2. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	985,000	6/29 人日
第2四半期	100,000	4/4 人日
第3四半期	3,915,000	3/40 人日
第4四半期		
合計	5,000,000	13/73 人日